

レ
ク
イ
エ
ム

神なき時代と言われる現代
巨大なネットワーク社会の中で
私たちは自分自身をいつの間にか見失い
心はよるべなく
あちるこちらを彷徨っています。

うつろいやすい私たちの心と建築のあいだには
大きな断絶があるように感じられます。
建築と体をつなぐものがヒューマンスケールであるとしたら
建築と心をつなぐものは目に見えない時間ではないでしょうか。

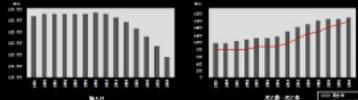
そこで時間に形を考え目に見えるモノとし
建築と心をつなぐ新たな空間をつくりだします。

人の死によって変化していく墓地という場所は
まさに時間の集積であると言えるでしょう。
墓地という場を借りて
時間を可視化した存在として増加していく墓碑
墓碑を生み出す建築を火葬場とし
私たちの心に死の訪きだす風景を描きだします。

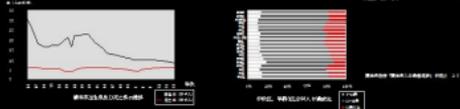


現状

日本全体の死亡状況



横浜市の死亡率状況



2018年までの国勢調査データでは死亡数の増加に比べて減少するも見られる。

また、高齢者でも死亡数は2000と比較して、増加の傾向にあるものの減少も確認されている。死亡数が増える一方で減少する人口も増えている。人口減少が加速していることが、人口減少率の増加から確認できる。人口減少率の増加は、人口減少率の増加を示している。

敷地の状況

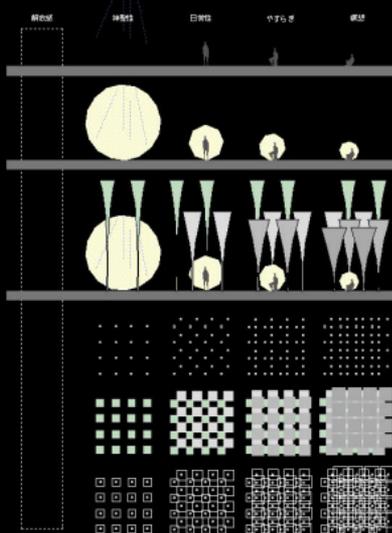


横浜市の墓地区域は、横浜市の中心部から南西に位置している。この地域は、横浜市の中心部から南西に位置している。この地域は、横浜市の中心部から南西に位置している。

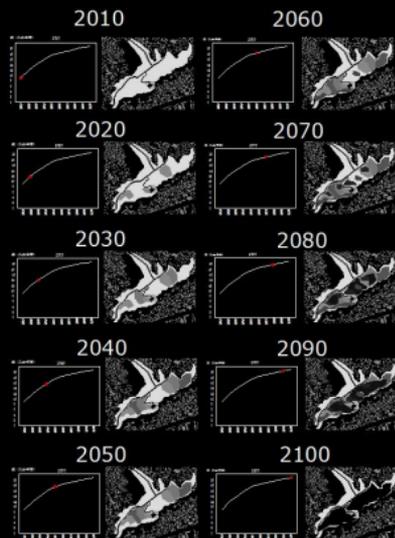
横浜市の墓地区域は、横浜市の中心部から南西に位置している。この地域は、横浜市の中心部から南西に位置している。この地域は、横浜市の中心部から南西に位置している。

横浜市の墓地区域は、横浜市の中心部から南西に位置している。この地域は、横浜市の中心部から南西に位置している。この地域は、横浜市の中心部から南西に位置している。

墓標の曲面率と密度の関係



横浜市死亡率の予想推移と墓標増加の過程



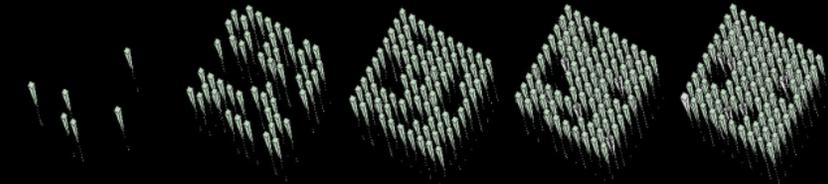
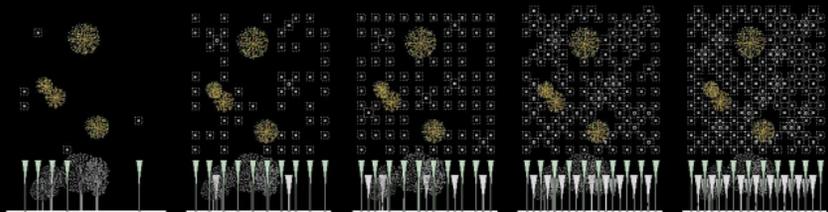
2010

2020

2030

2040

2050



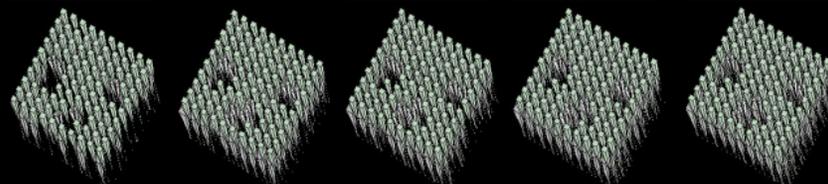
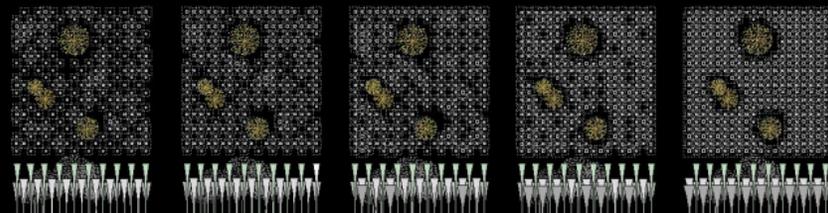
2060

2070

2080

2090

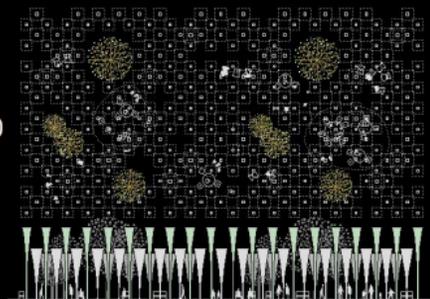
2100



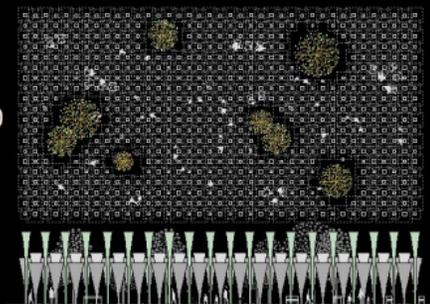
2010



2050



2100

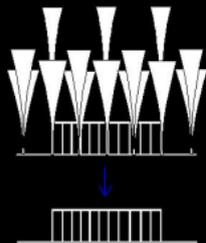


火葬場 平面 立面図

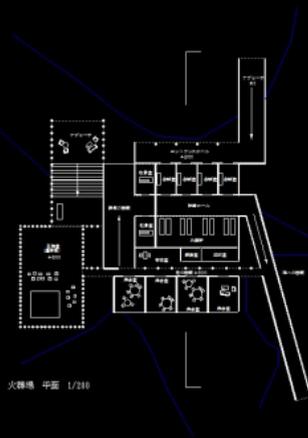


火葬場は
当地全体の中心となる施設であり
駅前の方からも静かなるに位置し
周囲に計画される。

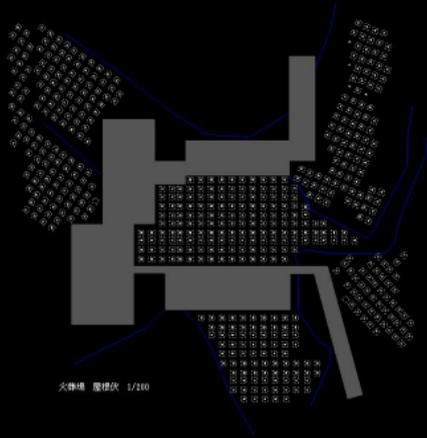
その存在は景観によって
徐々に感じられ周囲が一つ一つで
より静寂な場へと変化する。



火葬場は景観に溶け込むようにひっそりと住宅街にまもっている。



火葬場 平面 1/210



火葬場 敷地伏 1/210



火葬場 南面 1/210



火葬場 東立面 1/210





建築は
私たちの音
そして自然と同じように
変化してゆく

永遠に完成することのない
死の訪きだす風景は
私たちの心に
いつまでもあり続ける

レ
ク
イ
エ
ム